

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校の校訓である「人格の陶冶」を実現すべく、「自立した社会人、地域社会のリーダーになり得る社会人」の育成をめざす。

そのために夜間定時制、工科高校総合学科の柔軟な教育課程の特性と地域の教育力を活かして、以下の教育を行う。

1. 「ものづくり」を核に据えて基本的な知識・技能の定着を図りつつ、各種資格取得に挑戦させ自己実現へと導く。
2. 「働きながら学ぶ」ことを大切に、基本的生活習慣、社会規範の確立及び自らの進路決定に積極的に取り組む態度を育てる。
3. 教育活動全体を通して、教師と生徒が互いに信頼関係を築き、生徒の状況を適格に把握し、個々の能力や適性に応じた教育活動を行う。
4. 地域と連携し、地域の教育力を最大限に活かした教育活動を通して、社会の中で生きる自信と豊かな心を養う。

2 中期的目標

1 「自立した社会人」としての資質・能力の育成

(1) 生徒の規範意識の醸成

ア 社会の形成者としての自覚や忍耐力・責任感を養い、社会人の第一歩としての規範意識を身につけさせる。

(2) 「わかる授業」による基礎学力の育成

ア 公開授業、研究授業等の取組みを継続し、プロジェクター等 ICT 機器等を活用した授業を推進する。

※生徒向け学校教育自己診断：「授業はわかりやすくて楽しい」「教え方を工夫している先生が多い」H27[62%]→H30[60%台後半維持]

授業評価：「興味関心が持てた」「知識・技能が身に付いた」H27[77%]→H30[70%後半維持]

イ 技能講習や検定等を活用した学習意欲の向上を図る。

※H30 各種資格および検定の延べ合格者数 25 名維持 H27[8 名]→H30[15 名]

(3) 夢と志を持つ生徒の育成

ア 「総合的な学習の時間」、LHR 等を有機的に融合させ、キャリア教育、人権教育、志学を総合的に行うことができる指導計画を確立する。

※アルバイト等の就労体験率 H27[93%]→H30[現状維持]

イ 「働きながら学ぶ」ことを通じて学校生活や社会生活への適応を図る。

※進級・卒業率 H26[70%台後半]→H30[80%超を維持]

ウ 学校斡旋就職希望者の内定率 100%維持

2 生徒理解の促進と自己有用感を高める取組みの強化

(1) 支援教育委員会をさらに充実させ、個々の生徒への支援体制の強化

ア 人権、教育相談、養護教諭、SC、支援教育コーディネータ等との連携を密にして生徒の特性に応じた適格な学習指導、生徒指導を行う。

※生徒向け学校教育自己診断：「担任以外にも気軽に相談することができる先生がいる」H27[58%]→H30[70%]

イ 外部機関を活用するなど、生徒理解のための研修を行い、教職員一人ひとりのカウンセリングスキルの向上を図る。

※特に経験の少ない教員全員に対してカウンセリングマインド向上に向けた研修を年 2 回以上受講させる。

(2) 特別活動、生徒会活動、部活動等を通じて、生徒の自己有用感を醸成するとともに集団や学校への帰属意識を高める。

ア 生徒会行事、生徒の自主活動、ボランティア活動や地域連携活動の継続、発展をめざす。

※地域・企業等と連携した「ゆめ・チャレ」等の就労体験活動のさらなる発展充実 参画企業と動員生徒を毎年 5%拡張

イ 部活動を活性化させ、心身の健康増進を図るとともに、礼儀、マナー等を学ばせることで地域社会のリーダーとなる素地を磨く。

※部活動加入率 H27[41%]→H30[40%台維持] 定通全国大会への出場、近畿レベル以上の各種大会やイベントでの入賞

3 安全、安心で魅力ある開かれた学校づくり

(1) 生徒が安全に安心して学校生活を送ることができる環境整備

ア 「自他の命を大切に作る心」や自尊感情を育てるために発達段階に応じた研修を行う。

※生徒向け学校教育自己診断：「学校が楽しい」H27[57%]→H30[66%]毎年 3%ずつ引き上げる。

イ 防災教育など自然災害を想定した実践的な避難訓練を年 2 回行い、「自助・共助」の基盤を作る。

(2) 教育活動の積極的な情報発信

ア 学校ホームページの質感を充実させるとともに、更新頻度を高める。

イ 中学生、保護者、地域に対して、必要な情報をタイムリーに提供する。

4 学校全体の組織力の向上

(1) 教員の組織的、継続的な人材育成

ア 校内外の研修を効果的に活用した若手教員の人材育成

イ 学校運営の中核を担うミドルリーダーの早期育成および適材適所への配置

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 1 月実施分]	学校協議会からの意見
【学習指導等】 ・「教え方を工夫している(教員用)」で「あてはまる」が、60%(昨年 46%)に伸びた。多様な生徒が理解できるように説明の仕方、例の示し方、発問の仕方、ICT の活用など生徒が興味関心を抱くような授業展開を他の教員と情報共有することにより、改善の意識が高まったと言える。その結果、「教え方を工夫している先生が多い(生徒用)」で肯定的回答が 67%	第 1 回(6/24) ○「堺学」のさらなる発展と充実 ・「線香」は 11 年目、「包丁」は 12 年目をむかえる。地域の伝統地場産業と連携し、災害ボランティア活動の一環として「東北支援プロジェクト」を継続していることに対して評価する。今後も一人でも多くの生徒に対して、「自己有用感」を高める機会が増えることを期待する。

府立堺工科高等学校

<p>(昨年 62%)となった。今後、さらなる授業改善を行うために若手教員を中心にプロジェクターなど ICT 機器を活用した公開授業を展開していく予定である。</p> <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「気軽に相談することができる先生がいる」が 67% (昨年 58%) に伸びた。支援教育委員会を中心に生徒一人ひとりが抱える課題を教員全体で共有する体制が整いつつある。今後、研修を年 3 回程度設けて、教員のカウンセリングマインドのさらなる向上に力を注ぎ、支援を必要とする生徒の多様化に対応できるようにしたい。 ・「将来の生き方や進路について考える機会がある」の肯定的意見が 76% (昨年 66%) と伸びた。普段の授業や行事はもとより、命の大切さ、大人になるということ、働くことの意義などについて外部講師を招いて研修を行った。生徒の反応はすこぶるよかった。 <p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校生活についての先生の指導は理解できる」は 76% (昨年 72%) と微増している。担任が生徒と給食の時間をともにするなど生徒と接する時間を増やし、生徒を見守る姿勢が功を奏した。 ・「先生は自分たちの話をよく聞いてくれる」は 73% (昨年 67%) と伸びた。生徒の気持ちをしっかり受け止めたうえで、「ダメなものはダメ」という指導を行っている。生徒はその点を理解しているようである。 <p>【地域との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7 月に被災地の宮城県と岩手県を訪問し、これまでに寄贈した包丁 500 本を含む錆びて切れ味の悪くなった包丁の研ぎ直しを行った。また、地元の商店街で小学生に「職業体験」(「ゆめ・チャレ」と呼んでいる)をさせる企画が今回 5 回目を迎え、協力企業 29、参加小学生 240 名を超えているため、本校生徒の動員も 30 名を予定している。こういった事業を通して、地場産業への理解、地域連携の重要性についての肯定的意見は、教員 94% (昨年 78%)、生徒 68% (昨年 53%) と年々、教員、生徒ともに増えていることからさらなる地域連携の重要性を窺える。今後も持続可能な事業として確実なものにするため、地域連携を牽引してきた教員の後継者の育成が急務である。 <p>【情報発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校情報について提供の努力をしている(対保護者)」の「あてはまる」が、42% (H27 年度 20%) になったものの、他校と比較するとまだまだ発信回数や更新回数は地域のニーズに達していないと判断している。来年度は、情報発信をする部署を設けてタイムリーな情報提供を行う。 	<p>○自転車保険について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が安心して学校生活を送ることができるように、安価で 24 時間カバーできる自転車保険の種類を検討されたい。 <p>○支援体制について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国にルーツをもつ生徒、不登校を経験した生徒など、支援を必要とする生徒の多様化に日々対応している先生方に敬意を表する。よりきめ細かな指導が求められている中で、学級数が減らされることがないようにがんばってもらいたい。 <p>第 2 回 (10/21)</p> <p>○次世代教員の育成と伝統の継承</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪府教育庁が行っている「育成支援チーム研修」等あらゆる研修を通して、次世代の人材育成と今まで培ってきた伝統の円滑な継承の方策を検討されたい。 <p>○地域連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ゆめ・チャレ (小学生の職業体験)」が 5 回目を迎えるなど、地域で定着し、注目度も高くなってきている。今後もより多くの小学生に職業体験ができるように地域と密に連携し、児童・生徒の未来を創造してほしい。 ・「山之口商店街」「利品の杜」が連携して地域の活性化を推進する各種イベントを企画している。その運営に生徒が協力してくれていると聞いている。堺市が行う種々のイベントに生徒が協力してくれて嬉しく思う。今後も持続可能な地域連携を推進されたい。 <p>○周年行事とギネス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・80 周年記念式典時の「世界最大の線香モザイク画」を是非成功させて、学校の知名度をあげるとともに堺の伝統地場産業の活性化と「百舌鳥・古市古墳群」の世界遺産への登録の後押しになることを願っている。 <p>第 3 回 (2/3)</p> <p>○授業アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケート結果を見ると、項目ごとに多少の上昇下降はあるが、H27 年度から H28 年度の推移をみると上昇傾向にあり、生徒が落ち着いて学習していることが読み取れる。 <p>○来年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度行った育成支援研修の後継版として、学校の将来や課題を検討する場を設けて、学校の活性化につなげてほしい。 ・喫食率は 2 年前からは大幅に伸びており、生徒の健康面を考えると是非、給食を続けてほしい。 ・クラブ加入率が 40% 台から 60% 台まで大幅に伸びている。クラブ加入率が上がると学校が活性化し、行事活動や生徒会活動も活気を帯びてくる。この数字を維持されたい。 <p>○地域連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ゆめ・チャレ」については、かなり地域に根付いてきている。文科省・経産省からキャリア教育推進連携表彰 優秀賞を獲得し、今までの取組が国に評価されたことは素晴らしい。今後もこの事業が他府県からのモデルケースとなるよう発展充実に努められたい。 <p>○情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定時制高校のシステムをよく知らず、昔のイメージで定時制をとらえている地域の皆さんもいる。そういったイメージを払拭するためにも校内の情報をどんどん発信されたい。 ・「堺学」「ギネス登録」「ゆめ・チャレ」「東北支援プロジェクト」など発信材料がたくさんある。学校 HP などタイムリーに情報を発信してほしい。
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 「自立した社会人」としての資質・能力の育成	<p>(1) 生徒の規範意識の醸成</p> <p>ア 社会人としての規範意識を身につけさせる。</p> <p>(2) 「わかる授業」による基礎学力の育成</p> <p>ア ICT 機器等を活用した授業の推進</p> <p>(3) 夢と志を持つ生徒の育成</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭と連携した基本的な生活習慣を確立させるとともに全教科において、挨拶、時間、社会の常識を浸透させる指導をする。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1 回目の授業アンケートを課題把握、2 回目を効果検証と位置づけ授業改善を推進する。 ・年 2 回以上の公開授業週間を実施し、授業改善を行う。 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部、ハローワーク、サポートステーション等と担任が密に連携して個々の生徒の進路実現を支援する。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遅刻総数前年度比 5% 減 ・生徒向け学校教育自己診断結果における規範意識に関する質問での肯定率 65% 以上 (H27 年度 60%) <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け学校教育自己診断：「授業はわかりやすく楽しい」「教え方を工夫している先生が多い」を 65% 以上 (H27 年度 62%) <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルバイト等の就労体験率 93% 以上維持 (27 年度 93%) ・就職内定率 100% 維持 	<p>(1)</p> <p>アルバイトをさせることで基本的な生活習慣が身についた生徒が増加し、遅刻総数は前年度と比べて 12% 減少した。(○)</p> <p>アルバイト経験により、社会人としての規範意識が高まり、学校教育自己診断において規範意識の肯定率が 68% となった。(○)</p> <p>(2) 若い教員を中心にプロジェクターを活用した授業が徐々に増え、興味関心を持たせる授業について教員間で意見交換が見られた。学校教育自己診断において「わかりやすく楽しい」「工夫している先生が多い」がともに 67% (○)</p> <p>(3)</p> <p>進路指導部、ハローワーク、外部講師によるキャリア研修など多面的に勤労観、就労感を育む取組を行った結果、アルバイトの就労体験率は 94%、就職内定率 100% 維持 (○)</p>

府立堺工科高等学校

2 生徒理解の促進と自己有用感を高める取組みの強化	<p>(1) 支援教育委員会のさらなる充実と個々の生徒への支援体制の強化</p> <p>(2) 生徒の自己有用感の醸成</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 支援教育委員会を定期的実施し、生徒の抱える課題の情報収集やその対応策を議論し、指導方針の共通認識を図る。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動、部活動や校外美化活動などを活性化させ、自校を愛する心を育成する。 地域企業等と連携して、「ワーキングスペース」を活用した職業実習や小学生仕事体験「ゆめ・チャレ」を推進し、生徒の勤労観、コミュニケーション力を高め、進路実現を支援する。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断：「担任以外にも気軽に相談することができる先生がいる」60%以上 (H27年度 58%) <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動加入率 45% (H27年度 41%) 定通全国大会への出場、近畿レベル以上の各種大会やイベントでの入賞 参画企業 20社維持と動員生徒 5%拡張 	<p>(1)</p> <p>支援教育委員会を中心に年3回の外部講師による研修を全日制、定時制の枠をとって実施し様々な事例について学んだ。以下の数字からそれらの知識が個々の生徒に対する対応策につながったと言える。「担任以外にも気軽に相談することができる先生がいる」が 67% (◎)</p> <p>(2)</p> <p>部活動加入率は延べで 62%を達成 (◎)</p> <p>ソフトテニス部、柔道部が定通全国大会に昨年に引き続き出場。実定総体においては、総合優勝を果たした。エコデンレース全国大会に初参戦し、98台中49位(定時制内では2位)に入るなど大健闘をした。(◎)</p> <p>東北支援プロジェクトにおいて、今回は現地で以前に寄贈した包丁の「研ぎ直し」を行ったことが評価され、ボランティアスピリット賞関西ブロックコミュニティ賞と大阪府民会議青少年賞を受賞 (◎)</p> <p>「線香による世界最大のモザイク画」がギネスに登録され、生徒一同に対して教育長賞を頂いた。</p> <p>「ゆめ・チャレ」について今年度は2月に実施。参画企業は 29社、動員生徒は 32名となり、昨年より規模の拡大が図れた。今回で5回目を迎える「ゆめ・チャレ」がキャリア教育の観点から評価され、文科省、経産省からキャリア教育推進連携表彰で優秀賞を頂いた。(◎)</p>
3 安全、安心して魅力ある開かれた学校づくり	<p>(1) 安全で安心して学校生活を送るための環境整備</p> <p>(2) 教育活動の積極的な情報発信</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 登校時や給食時に挨拶指導や声かけを行い、生徒とコミュニケーションをとる 東日本大震災の教訓を踏まえ、様々な自然災害を想定した避難訓練を行うなど、「防災」の意識を高め、「自助・共助」の基盤を作り、危機管理体制の確立を図る。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 中学生、保護者、地域に対して、教育情報、校内の活動、地域と連携した活動(堺学、ゆめ・チャレ、東北支援)等が鮮明に伝わるよう学校ウェブの創意工夫を行う。 小学校、中学校の教員と連携を密にして、「ゆめ・チャレ」や入試関連情報提供など丁寧な広報活動を行う。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断：「学校が楽しい」63% (H27年度 57%) 生徒向け学校教育自己診断の学校安全に関する項目における肯定率 70%以上 (H27年度 65%) <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間 80回以上の発信 関係学校訪問 30校 	<p>(1)</p> <p>管理職も含め、全担任が生徒とともに給食をとるなど、コミュニケーションの機会をできるだけ多くとるようにした。「学校が楽しい」は 57% (△)</p> <p>防災避難訓練時に東日本大震災の復興支援に携わった自衛隊隊員による防災教育を行った。非常時における「自助、共助、公助」の役割について理解を深めることができた。学校安全の肯定率は 60% (○)</p> <p>(2)</p> <p>学校ウェブの創意工夫についてはパソコン更新が円滑に行われなかったため、未だ途中中 (△)</p> <p>旧8地区中高連絡会を活用して中学校校長 60名に対し、学校説明会を行った。反響は大きく 12月の体験入学会には 10名が参加した。(○)</p> <p>80周年記念式典時に挑戦した「世界最大の線香モザイク画」がギネスに登録され、学校の魅力を伝える情報提供となった。(◎)</p>
4 学校全体の組織力の向上	<p>(1) 教員の組織的、継続的な人材育成</p> <p>ア 校内外の研修を効果的に利用した若手教員の育成</p> <p>イ 学校運営の中核を担うミドルリーダーの育成</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 他校の研究授業、教育センターなどで行われる研修に年3回以上参加させ、職員会議時に研修内容を発表させ、指導力やカウンセリングマインドの向上を図る。 OJTを推進し、教職員全体の指導力向上に努める。 経験の少ない教員を積極的に新規事業の長に登用するなど次期のミドルリーダーの育成を行う。 全校集会等の機会において校長のみならず、教員が生徒に対して人生経験を通じた講話を行うことにより、プレゼン力を養う。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 年3回以上研修を受講させ、研修成果を職員会議時に発表させる。 新機軸のリーダーに若手の登用 20名以上の教員に集会時に講話の機会を与える。 	<p>(1)</p> <p>学校経営支援Gが主催する「育成支援チーム」事業研修に多くの若手教員が参加し、SWOT分析等を行うことにより、課題の発見とその解決方法を見出す手法を学んだ。回を重ねるごとに積極的に意見を言う雰囲気醸成され、ミドルリーダー育成の契機となった。(◎)</p> <p>パソコンの更新作業やそれに伴う種々の手続きを経験の少ない教員に任せたと、自分で考え自分で完結させる意識が芽生えた。(○)</p>